

——翻訳：アンジェラ・メルケル現ドイツ連邦共和国首相講演
「総対的世界の中のヨーロッパの価値」——ミュンヘン：バイエルン・カトリック・
アカデミー 2005年11月2日

Die Übersetzung: Angela Merkel, Europas Werte in einer globalen Welt
(Katholische Akademie Bayern-München. 2. November 2005)

上 野 喬
(Takashi Uéno)

——翻訳：アンジェラ・メルケル現ドイツ連邦共和国首相講演
「総体的世界の中のヨーロッパの価値」——

上 野 喬

〈序〉

総体的世界の中のヨーロッパの価値

序

2006年当初からヨーロッパ連合 EU のユーロ通貨は他通貨に比べて堅調を保ち、通年で約2.6%の当連合経済成長率もアメリカ合衆国や日本のそれを凌いでいる。2007年からはブルガリア、ルーマニア二ヶ国が当連合に加入し、加盟国は27ヶ国総人口4億9000万人に達し、ユーロ貨は13ヶ国で通用されている。また2007年当初より当連合ヨーロッパ議会議長には、以下に訳出する講演の語り手であるアンジェラ・メルケルドイツ連邦共和国首相の就・兼任が予定されている。

東南アジア諸国を中心とするアジア共同体構想が、前途不明な状況にあることを考える時、これとは対照的に漸く統合の利点を発揮してきたかにみえるヨーロッパ連合の成立・発展の根本要因を、2005年11月2日にメルケルドイツキリスト教民主同盟議長はどのように把握していたのだろうか。彼女はドイツ連邦共和国首相に指名・就任する3週間前に、ミュンヘンはバイエルン・カトリック・アカデミーにおいて「グローバル（総体的）な世界におけるヨーロッパの価値」と題する講演を行なったのである。

訳者は2006年7月バーゼル大学（スイス共和国）のWWZ（経済学センター）の図書館を利用していたが、そこでアンジェラさんの講演を一読、その内容に共感し、ミュンヘンのカトリック・アカデミーからその全文を引き出して頂き、これを日本語に訳出して本学の学生諸君に紹介したいと考えたのである。訳文は何よりもまず通読して主旨を理解して頂くことを優先した。このためいくつかの誤りも皆無でないと恐れるが、当訳文は第一回訳として諒承して頂きたい。なおメルケル首相発場の状況については佐瀬昌盛拓殖大学教授の好論説「『外交的仲介機能』を再建するメルケル独首相の実力と不安」——新潮社刊『フォーサイト』2006年6月号所収——があり、訳出のために利用させて頂いた。

メルケルによればヨーロッパの価値とは、何にもまして自由の重視・自由の賛歌であり、キリスト教的自由を根底におく人間の尊厳 Menschenwürde の理念 Idee に要約される。勿論このような価

値と自由とを結合する考え方は彼女の独創ではない。例えばかつての共産主義国家チェコスロバキアの反体制活動家・自由の闘士だったチェコ共和国大統領バツラフ・ハベルは1994年3月ヨーロッパ議会（ストラズブルグ）での演説において、ヨーロッパ連合は2000年の時を通して形造られた、古典古代とキリスト教にまで遡りうる偉大な文明的価値の調和に基づいていること、更に「私達は今日この根源を、近代民主主義、法治国家そして市民共同体の基礎として把握しております」と語りかけた。4年以上の獄中生活を経験したハベル（サリル・トリパシー著森洋子訳「バツラフ・ハベル」(前掲誌、2003年3月号所収)。そして1954年ハンブルク生れではあるが、聖職者の父親に伴われ、当時の共産主義国ドイツ民主主義共和国のテンプリン（ブランデンブルグ）に移住しそこで生長し、前者同様の抑圧を体験したメルケル、両者の執拗なまでの自由の強調こそ、彼らの生存経験に由来する訴えなのである。

メルケルは上述したように、ヨーロッパの価値の第一番として人間の尊厳をあげた。自らが被造物であるが故に、万能から程遠いことを認めた上での相互の人間らしさ、寛容の必要が説かれる。そして第二番としてヨーロッパ社会における福祉厚生の実が明示される。当社会でのそれらの費用は、アメリカ合衆国や日本のそれに比べて、文字通り格段に厚いのである。こうした特徴を示すヨーロッパの価値の根底には、カトリック・プロテスタントというキリスト教の社会倫理でもある連帯性 *Solidarität* と補完性 *Subsidiarität* が幅広く流れていることをくり返し強調した。こうしたキリスト教倫理に裏打ちされたヨーロッパの価値そしてヨーロッパの現実社会の通念からすれば、イスラム教社会への異和感が語られるのも当然といえようか。彼女はイスラム教国家トルコ共和国のヨーロッパ連合への加入については否定的である。ヨーロッパ大陸殊に東ヨーロッパを旅していて気付くことは、当地域の人々にとり、モンゴル、オスマントルコ等かつての東方騎馬民族、異教徒に対する恐怖・嫌悪感は、彼らの深層心理の一部を成しているという事であろう。彼女も亦このような感情を意識せねばならなかった点に、この演説の特徴がある。過去の紛争を忘れては生きていけぬ、そして許さなければ生きていけぬ強烈な個性を保持するユーラシア大陸の人間、社会の統合には長い時間を必要とするのである。

ヨーロッパ連合のグローバル化は当連合に新しいプラスとマイナスの局面をもたらす。メルケルはテロリズム、麻薬問題等マイナスの局面に対峙するのに当連合独りでは力量不足であり、必然的に新大陸のアメリカ合衆国との協調・共同行為を真剣に考えるべきだと説く。キリスト教的価値観を共有しうる民主主義国家との連帯こそ、文化的かつ歴史的観念として把握される当連合の人々にとっての将来があること、これが当座検討せねばならぬ重要課題であることを強調したのである。

総体的世界の中のヨーロッパの価値

(ドイツキリスト教民主同盟議長アンジェラ・メルケル講演、2005年11月2日ミュンヘン：カトリック・アカデミー・バイエルン)

政治は近年、全てを解決し得るのだとの印象を与えたため、いささか信用を失っております。でもそうは行きません。政治はどこが私達の限界であるかを、はっきりさせねばならないのです。また政治は、この国のために尽力しようとしている女と男の市民との間の対話を必要としております。ここ、ミュンヘンのカトリック・アカデミーこそ、人間性を回復させ得るため、政治的可能性を超えて方向性を与え、進路を決め、議論を興すためのまことに格好の場所なのです。世界は今のところ、ドイツを咄然として眺めているようです。私達は依然としてヨーロッパの経済大国であり、私達自身義務を負ったからには、世界共同体の中で使命を果し得る、かつ果さねばならぬ重要な国なのです。こうした国が第一に自己の営為に取り組む時こそ、力を、殊に多くの他人のために使われる力を、結びつけねばなりません。

たしかにヨーロッパは極めて緊迫した状況にあります。私達全ては数日来、ドイツのことはさておきましても、モロッコ、ヨーロッパの境界での劇的光景をおぼえております。アフリカからの人々が、スペイン領飛地メリジャやセウタの国境柵を、いかにして乗り越えようとしたかです。部族戦争が支配的で絶望的貧困状態にある——マリ、カメルーン、ベニンやコンゴ——領域から、絶望した人々が殺到し、ともかくもサハラ砂漠を横断した数週間の苦難の後に、人々——女子、男子、乳児、未成年者、子供達——は手作り木バシゴ、セーター、部厚い手袋を使って有刺鉄線に立ち向い、彼らを、夢であるヨーロッパから隔てる柵を、乗り越えようとしたのです。これらの人々にとり私達ヨーロッパは、夢の領域なのです。さて私達がヨーロッパの価値について議論する時、言うまでもなく問題は、この世界の紛争の中で、更に21世紀の総体的世界の文化の議論において、いかなる役割をヨーロッパが果すのかに、結びついております。私達是要塞人間となり、その考えも一部人間社会の領域に閉じこめられている、人間で宜しいのでしょうか。まさしく私達ドイツ人は、数十年にわたる生活を強いられた、壁の中の要塞思想により、最も嫌な恐ろしい経験をしました。そうではなく私達は、総体的展望をもつ共同体を造れませんか。ヨーロッパのみならず、世界の他地域にも人間的まなざしを注ぎ得る未来像をもつようにしませんか。歴史を一瞥することは、私は堅く信じておりますが、私達を助け、学習させ更に自信を与えます。実にヨーロッパの人々の共通の歴史には、数世紀にわたる数々の大規模で嫌うべき紛争が刻み込まれております。30年戦争を考えましても、それは長年にわたる宗教的紛争でした。そして20世紀には、宗教ではなく国家主義に刻み込まれた紛争やイデオロギーに由来する戦争が、ヨーロッパと世界に、私達には全てが本当た

と思ひもよらぬ、ましてや他の人も私達以上に、本当と思ひもしなかった程の恐怖と破壊とをもたらしたのです。

当時この多くは繁栄と平和の大陸を示しておりませんでした。私達は今日何事もなく通過する国境の、ポーランドからドイツへ、ドイツからフランスへの往来は殆んど考えられませんでした。でも今日でさえ、同様の緊張は、私達がインドとパキスタン、イスラエルとパレスチナでみているように続いております。これら全ては今日の私達には、遠く隔っているようにみえますが、歴史的にヨーロッパでも同様な状態にあったのは、つい先程のことなのです。ですから私達が今日ヨーロッパで達成したものと、同じ目線から展望する時、これは殆んど奇跡ですね。私達は歴史上最悪の流れ——植民主義、国家主義、人種差別、階級闘争——を終らせましたが、願わくは、一回限りとしたいものです。でも私は思うのですが、これらに対しては絶えず戦い、考え抜きかつ検討されねばならず、決してこれを当然の事とみなしてはなりません。今や私達はドイツ統一後の時期に生活し、最早や多くは起るまいと考えております。でも別の面で私達は、いかに多くの脅威にさらされ、またいかに多くの問題が残されたままかをも知っております。確かに私達は、恐怖と破壊とを払いのけ、古い敵愾心を巨大な一撃で克服しました。1951年の石炭・鉄鋼ヨーロッパ共同体条約署名式において、時のドイツ連邦共和国首相コンラート・アデナウアーは「鉄と鋼鉄とは、これまでヨーロッパの人々の戦いで、互いに決定的役割を果たしました。今や鉄と鋼鉄とは、ヨーロッパの人々を通商と思考の共通化に向わせねばなりません」と述べました。ですから国民国家の協調。これこそ、戦争を放棄した旧大陸の発展の、しかも全く新しい発展を造りだすための基礎であり、だからこそそれは成功したのです。

その後ヨーロッパ諸国は緊密に近づきました。ヨーロッパ経済共同体、統一ヨーロッパ法、(出入国業務簡素化の) シェンゲン協定、ユーロ通貨導入に至るヨーロッパ域内市場、ヨーロッパ連合・東欧拡大策と現在私達も取り組んでいる憲法締結交渉等——全てこれらは共同の歩みなのです。ユーロ通貨導入によりヨーロッパ連合、ヨーロッパ統合は後戻りできなくなりました。それらは堅い基礎をもちますが、私達はこの基礎の中味を、当然でしょうが毎日調べねばなりません。ですからこれは、単なる技術官僚的問題ではなく、個有の通貨という主権を、ヨーロッパ的責任に引き渡した女と男の市民の信頼と心構えの問題なのです。これらの信頼を、誰でも最後にはしたい事をするのだし、次世代人には、未解決の問題しか残していないような事で、失望させてはならないでしょう。

ヨーロッパ連合の今日の規模は、息をのむばかり広くかつ魅力的です。多くの人達には期待以上と言うべきでしょう。25ヶ国、4億5000万の人間、更に巨大な経済単位ですが、しかし人間こそ、平和、自由そして繁栄の中に生活し、EU 旅券をもち、全ての領域への移動を経験できるのです。

今日若人はリトアニアで学び、フランスで職業研修をつみ、スカンディナヴィアやポーランドで事業を興し、しかも彼らはそこで市長や自治体議長を選ぶこともできるのです。これは今日成人に近づいた世代人の経験です。これは、とりわけ若人にとっての見通しですが、二つの世界戦争或いは少なくともその一つを、個人的に体験した人にとり、勿論信じられない位の満足感なのです。こうして私達は、共同・自由・安全そして安定圏内で生活しており、これを造って下さった人々への感謝の念を、私達は持ち続けているのです。私は個人的にいつも感嘆しているのですが、どうして人間は、あんなに苦しかった第二次世界戦争の経験の直後に、教訓を会得し、そして、私達は事を変えましょう、それから何かを学びとりましょうと言えたのでしょうか。ましてやそれは驚く程うまく行ったため、なおさら、それを起し得た理念、精神的資源とは何んだったかを、常に探りかつ思い至すことは重要なのです。どうして生粋のボメラニアやパイエルン、カタランそしてフランドル、ヴァリスそしてロンバルド人が、言葉・伝統・生活様式の違いにも拘らず、こうした共通理解に到達し、多くの事柄を共同で、自から組織することができるようになったのでしょうか。

70年も前に、スペインの文化哲学者オルテガ・イ・ガセットは彼のベストセラー『大衆の反乱』の中で「スペイン人、ドイツ人、イギリス人そしてフランス人は、望むなら、そのまま、違ったまままでいられます。しかし今日彼らの精神的貸借表を造れば、その資産の殆んどは私達の時々の祖国からではなく、共通のヨーロッパという資産から由来していることが明らかとなります。私達の全ての中で、ヨーロッパ人こそが、ドイツ人、スペイン人そしてフランス人を圧倒しているのです」と書きました。ですから私達は、私達の中のヨーロッパ人とは何か、どんな伝統をもっているかをいつも自問しなければならないのです。グレコ・ローマン古代、ユダヤ・キリスト教的伝統そして啓蒙主義こそヨーロッパ文化の三つの要綱であり、これが私達の大陸に容貌を与えたのだと、私は考えております。殊にキリスト教はヨーロッパに、それが多様な形であれ、ビザンチン東方教会の典礼、ローマ・カトリック教会の秘蹟と博愛の伝統プロテスタントの伝統、更には世俗国家の伝統をも刻み込みました。

しかしながら、全てこれらの間には内的関連があります。それは民主主義の精神、人間の使命感、個人の自由の中の人格尊厳、法の前の他人の尊重、同胞に対する隣人愛の実現に相応しております。つまり神の似姿とされるユダヤ・キリスト教の人間理解から、全ての人の生来の同価値性、国家・言語・文化・宗教・肌色そして種族からの独立が引き出されたのです。いつも至極当然だとして決して生活しているわけではありませんが、今日私達には至極当然とみえることも、決して至極当然の大切なものではありません。私達が一旦歴史をはるかにさかのぼりまして、個々人の尊厳が不可分かつ平等であったことは、決して明かではありません。更に私達が総体化を語る時にも、それが何にを言うのかを、はっきりわきまえるべきなのです。ですからヨーロッパの要塞化は許されず、

私達自身を隔離し他人を認めない空間に閉じ込めることも許されず、ましてや世界で、繁栄、生活進歩、自由を自から主張してくる人々を恐れることも、決して許されないのです。私達は今日、中国人、インド人や他の人々が自から、よりよい生活を造ろうとしていることを喜ぶべきなのです。恐れは、私達のキリスト教的人間像からしましても、決して適切な対応ではありません。私達はドイツの中の隣人のよりよい生活に関わるだけでなく、この地上の凡ゆる人間のそれにも関わらねばならないので、これはたやすいことではありません。

将来の開発援助は、たしかに私達は全てをなし得なくとも、単なる慈善行為であってはならず、私達の人間像に結びつけて真剣に考える時、それは私達に対する課題となります。ところで、私達はいかにこの開発に対応すべきかの間についての答は、次のようになろうかと私は信じます。即ち私達が生活しているようなヨーロッパモデル、私達がもっているようなヨーロッパの価値は、他人により尊重されるのだろうか、或いは他の伝統に依っている他人には、美しい見せかけとして利用され、突然不要とされはしないのかです。これこそ私達全てにとり、統体化の中の重大な検討事項なのです。

神に結ばれた人格の尊厳、そして自由への招聘、これこそ全ての人権、法治国家、正義、連帯性の、更には近代的社会国家形成時における補完性の最も深い基礎なのであり、個人的自由を国家機関にまかせるのではない、自分の形成という美徳なのです。ヨーロッパ連合の二つの基礎原理でもある連帯性と補完性とは、決して偶然の産物ではなく、古代・聖書・ヨーロッパ啓蒙主義を超えて、カトリック的社会教義と福音的社会倫理に至った、数百年の長い発展の産物なのです。その一つは他の上に築かれており、全てを埋てもなお未来に行けると信ずることは、私達を大混乱に導くだけでしょう。

勿論ヨーロッパの価値の幅広い底辺は、国家と宗教の分離の長い過程から成立しました。キリスト教のヨーロッパ大陸において、精神と世俗の権力分離、権力分立の原型は、数百年かかって完成されたのです。今日では、信教の自由、寛容、多様性、少数者保護、地域多様性、宗教的多様性は、ヨーロッパ基本法の当然の構成要素なのです。これら文化・宗教そして人間的なヨーロッパの遺産は〔ヨーロッパ〕憲法前文にも表わされておりますが、私達共通の同一性基盤を造り、この価値基盤は、今日迄に私達のヨーロッパ的人間、社会そして世界像に刻み込まれているのです。たしかにヨーロッパ憲法前文におきましても、私達に刻み込まれたものを、ヨーロッパ共同体的価値空間の中で表現することが、いかに難かしかったかが、再び明かにされました。個人的に私は、このための戦を続けるのをあきらめておりません。ですからヨーロッパでは、こうした多くのものがこうして長く続くことになるのです。ですからあきらめるなど、とんでもないことで、僅か5年や6年でそれは完成されず、更に続けられねばならないのです。私は大変興味深い進歩を、極めて世俗的な

国フランスで、いくつかの宗派や信仰が大きく隔っているにも拘らず、いかに広く独自の政治、社会を組織し得たかの問題を、みております。一定のものについてかつて大変有効であったものも、一定期間内に再び改善できることが示されました。こうしてあるものはいつまでも存続しているのですね。ですから私達はここでドイツ人として確固たる姿勢をとらねばならず、私は更にこれを強調して参ります。

人間的、開明的社会を造りだしたことで、ヨーロッパは誇ることができるでしょう。ヨーロッパ的理念は一つの成果ですが、勿論既存のものに固執することでは、十分ではありません。今日私達ヨーロッパは危機の中にありますが、これはまたヨーロッパが大きな挑戦に直面していることなのです。その価値基盤は女と男の市民により経験できましようが、いかに私がそれを言葉で現わそうとも、多くの人にはみることはできません。経済と通貨の統合力は正しかったことが明らかになりましたが、十分ではないでしょう。それらは限られたものなのです。また移住と統治不全拡大の不安も現われます。即ち低賃銀、就労競争、犯罪の不安、官僚制巨大国家の不安、トルコ加盟問題の議論でみられたような、国境消滅の不安であり、全ては人々を不安に陥れるのです。

民主主義国家においては、人間の不安に答を与えることが、いつも正しく大切です。確かに第二次世界大戦後のヨーロッパは正解をだしましたが、現在のヨーロッパの凡ゆる発展も亦正しいのだとはいえません。私は個人的に思うのですが、域内市場の正しい導入にも拘らず、私達が互いに話し合わねばならぬ多くの問題も生じております。殊に私達には、ヨーロッパ統一の政治的調整が必要であり、今日多くの人に映じているような気ままな拡大発展は全く必要ではありません。法皇ベネディクト16世がラッツィンガー枢機卿時代に、特有の逆説状況が出現したと大変印象的に書いたことが、興味を引きます。即ちポストヨーロッパ的技術・世俗的世界の勝利、世界的に認められた私達の生活様式と思考方法の普遍化にも拘らず、今や別の価値体系出現の 때가、確かに私達自身はうまくやりとげたにせよ、到来したかにみえ、こうして私達個有の靈的力の所謂衰えと麻痺とを経験していること。私達は多くを達成したが、今やいかに進むべきかについては私達自身全く途方にくれていること。即ち彼は「ヨーロッパはよりによって、最大の成功時に、内側からの空虚化が進行しているようであり、あたかも組織移植に頼らねばならぬ致命的循環器系障害で麻痺しているようなのです。暴力増大、麻薬への逃避、汚職拡大は私達を大変神経質にし、価値下落は好ましくない物質的結果をもたらし、そのため対抗調整は不可欠となりました」と書き、更に「ヨーロッパが生き長らえたいければ、自分自身を新しく、批判的かつ謙虚に受け止めることが必要なのです。常に熱狂的に求められている文化多様性も、往々にして個有性拒否、個有性からの逃亡なのです。しかし文化多様性こそ、個有性に対する共通定数、照準点なくして成り立ちえません」と書きました。私は全面的にこれを是しといたします。こうして私達には、新らしく考え、問わねばならぬこと、

即ち私達を導きかつ政治と社会を造らせる個有性の照準点とは何なのかの課題が与えられました。勿論私にとり第一番目は人間尊厳です。ヨーロッパの価値とは、人間の尊厳の理念に要約されましょう。ではこの人間の絶対的尊厳とは何なのでしょう。それは人間の命は意のままにできず、凡ゆる人間は一回限りの命であり、凡ゆる人間は平等、譲渡不能な尊厳をもっていることでしょうね。彼は被造物でありまた創造者でもありながら、自由を呼び求めているのです。こうして自由は、私達の思考の支・中心点なのですが、気ままな自由であってはならず、責任ある自由、何かから逃れる自由ではなく、何かを目指す自由なのです。人間はですから個人であるだけでなく、共同体的存在であり、こうして共同体への責任を負っているのです。

こうして自由と責任とは、初めから結びついていたのであり、また政治は人間の自由を保証し、これにより夫々の人間は、彼の力の中で、与えられた才能を発揮させる課題をもつのです。更にキリスト教的人間像には、人間は間違い易く、権力とその乱用により誘惑され易いとの判断をも含んでいたことで、人間の絶対的尊厳の理念こそ、ヨーロッパで人間らしい社会を造りださせたのです。さて私達は今日、遺伝子技術の可能性、生体臨床医学と呼び得る、全く新しい挑戦をうけております。こうしてたしかに私達には、機会と危険とを勘案し、その上で私達の答を引きだすべきだとの、全く新しい課題が生じてきました。人間の苦しみは医学的成果により和らげ得ることを、私達は知っていますが、でも他人の安全のために、一個人の尊厳の破壊を許してはなりません。これは私達自身も関わる葛藤であり、これについても私達は、明確な答をみつければならないのです。私達は決して何んでも可能との錯覚に陥ってはならない、これは厄介なことです。私達が胎児保護法や幹細胞利用問題を議論した時こそ、多分ドイツ連邦議会において最も緊張し、最も真剣かつ最も深刻な審議となりました。党员拘束なしの時間だったからこそ、明らかに困難な事柄でしたが、例えば臓器移植法成立に尽力できたのです。私達は来るべき年におきまして、一人の人間の尊厳とは何か、私はこれら人間全体のため何を変えねばならないのか、彼の同一性はどれ位長く守られるのか、私が最初にしていけないことは何か、他人を助けるための断念とは一体何を言うのか等について、極めて集中的に話し合わねばならないでしょう。私達は全てを手にはできません。また私達には正しいことを、一層意義あることにするのに、どれ位私達自身国際化せねばならないのでしょうか。それからまた、国内で多くの事が邪魔されていても、勿論それらが別の場所でも起らないと、最後まで確かめることができないことを、わきまえねばなりません。

人生の終りには死、死の救済についての難問がおこります。私達が明らかに大きく関わっている議論、しかも私達があくまでも避けようとしている議論です。私は最近数ヶ月極めて身近かに、病人処遇の問題に関わりましたが、私自身これに関われば関わる程、益々落着かなくなりました。自分自身をはるかに超えて、誰が個人の死を決められましようか。錯乱状態に陥っているのに、何ん

とかなりますよと、誰が敢て決められましょうか。全てこれは殆んど人間にはできません。人口の高齢化に伴い、老人達が私達の社会で余計者と気を使わずに、お荷物との不安をもたずに、いかに人生の終りを人間らしく全うするかの問題について、私達は多くの力を向けねばならず、敢えていいますれば、向けるようにいたしましょう。人生の始まりと終りにあたって、誤った妥協を一旦始めれば、それには限りがなくなるのです。一体誰がこの限界線を引くべきでしょうか。この限界線尊重についての議論には、少くとも研究・開発そして技術による可能的限界線拡大と同じ位、多くの力或いは時間が費されるのです。更にまた私達は、人間の尊厳はヨーロッパの全ての国でも、いわんや世界の全ての地域でも、等しい価値をもたないことを認識せねばなりません。経済的共同事業或いは原料依存が重要課題となり、強力に成長する領域——中国、ロシア、多くの他国——との黒字貿易問題が重要課題となれば、たちまち利害対立が生まれてきます。この際私はどれ位人権について語り、どれ位それを控えるべきでしょうか。事を公けにしないため、どれ位私は自制しなければならぬのでしょうか。全てこれらは難問であり、しかも私達は日毎これを決めねばならず、しかも急ぐ余り、誤った実利主義に陥ってもならないのです。夫々の人生はいずれも同じ多くのものを背負っているのです。

私は自分の経験から申し上げますが、そしてこれはドイツ民主共和国 DDR のどこかで起った、多くの事に比べて勿論深刻でしたが、比較的害の少ない事でした。私は次の事だけを申し上げたいのです。誰かがバウツェン（DDR ドレスデン州）のどこかの刑務所に監禁されていることを、探りだすのに多くの力を使った人は旧連邦共和国にいなかったのでしょうか。またこうした囚人が無視され、いつまでもこれが公けにされなかったなら、多くの事は人目にふれることなく簡単に失われ、殆んど知られずに終ってしまったのでしょうか。そして今日私達が、出所した人の話から知ったように、皆様も他人が彼らに関心をもつとは、彼の人生そして家族にとり、いかなる意味をもつかを、考えられましても、私自身も時に暗い気持になってしまいます。ですから私達自身余り考えない、或いは私達日常の政治活動で取り組みまた提言しても殆んど無力に近い他国の運命について、私が考えた時にも、私達はこれについて、なおも耳を傾けて頂きたいのです。ですから——私はキリスト教民主同盟をも代弁しますが——人権の問題は、私達ドイツ人の経験からしましても、私達の政治においてまことに重要な価値をもつのであり、全て他の事は、キリスト教的人間像にとり、強調せねばならぬ言葉ではなさそうです。

私達の間像について。私達は第二番目にヨーロッパ的社会モデルをもっております。でも今や、アングロ・サクソンのモデルへの対抗物を立てるべきだと、私は考えておりません。勿論違いはございます。どれ位連帯性、しかも国家事業である連帯性が、私達政治の一部であるべきかの問題の違いです。例えば EU 加盟25ヶ国では国内粗生産の27%が社会保障費にあてられますが、アメリカ

合衆国では僅か15%、日本では17%です。これについて皆様も伝統だと認めて宜しいでしょうね。私達は社会的対話、協力関係の強力な伝統をもっております。社会的市場経済とは、資本・労働間対立の克服の表現なのです。しかしながら当然の事です、今や社会モデルはヨーロッパ連合の共通経済空間により、更には総体化の挑戦により大変な試練にさらされているのです。

この連合の空間において、社会的市場経済、社会的均一化、連帯性、個々人には理解しにくい危険に対しての補償に、疑問をいただく人はいないと、私は信じております。しかし答えねばならぬ疑問とは、いかにして私達はそれを造りだしかつ実現するのかでしょう。いかにして私達は正直者を助け、またやや沈み込んでいる者に、自分でがんばるよう、励ますことができるでしょうか。その答も、次世代人は彼らの課題解決法を何んとか見つかるだろうとあてにしながら、私達がいつまでも借金ぐらしを続けることであってはなりません。私は政治家として日頃、いかに私達は次世代人の負担をあてに生活し得るかの問題を扱っておりますが、これはまた目がくらむような事なのです。現在の私達財政の投資率は9%弱です。国際金融市場で利子が少しでも上昇すれば、利払い義務も上昇しますから、負債額も亦劇的に上昇します。次世代人に僅かな投資空間しか残さないのは、決して賢明ではありません。ですから私達が、就労年限をのばすべきだと話し合うことは決して悪い事ではなく、寧ろ共産主義と社会主義とがすでに立ち行かなくなった後の、来るべき年に、私達はアダム・リーゼの(冷厳な)数学的法則を無効とする方法は、多分みつけれはしないだろうとするのも単純素朴な見識でしょう。また多分これはうまく行かないでしょうし、距離を縮めたり或いは時間をのばそうとしても重力も加速度も、私達を助けませんから、私達自身現実と向き合わねばならないでしょう。またキリスト教的人間像では、次世代人個有のものを全て喰い盡してはいけないことになっているのです。

つまり私達は、多くの場所でおも弾力的になるべきなのです。それを避けてはなりませんし、これこそまさしくドイツの課題であり、ヨーロッパの他の人が良く生活し得るかは、私達の発展に結びついているのです。こうして私達が発展に先んじていたいのなら、これは新しいものをも意味するのですが、私達が達成し得るものにより全ての人が裕福になってほしいのです。ホルスト・ケーラードイツ連邦共和国大統領は、それを私に大変印象的な文章で伝えました。「私達は他人よりも高価な、凡ゆる極上品を狙いましょう。しかも高価に見合った極めて高品質のものでなければなりません」。この主張は実現されねばなりません。私は過去数ヶ月これについて数多く、人々と話し合いました。でも多くの人は、これを最早や信じていないようでした。私達は中国人よりも良品を造ろうではありませんか。私達はインド人よりも良品をしかも早く造ろうではありませんか。

今や自由が全ヨーロッパで勝利したヨーロッパ人の歴史を前にして、私達が成さなかったものについて、ひるまずに言うべき全ての理由が私達にはございます。これは成功の歴史についての全く

オカシナ非歴史的な答かもしれません。でも私達はきつとがんばるでしょう。成功は私達生得のものではなく、それについての法的請求権ありません。このための努力は好奇心、更に危険を予知する能力をも意味します。ですからより多くの活力、そして私達自身どれ位多くの安全にかこまれ、どれ位多くの危険を私が冒さねばならないかについての、慎重さが求められましょう。神への信頼が失われるにつれて、一定の危険に耐えることもできなくなったのではと、私は不安になるのです。しかも人は全てを企画し、全てを予言し得るとの考えは、根本的に決して自由な考えではありません。何故ならば神への信頼をもって歩まねばならぬ自由の空間を、彼らはいたずらに放置し、今日それに向って最早や立ち上ろうとしなくなりました。

私達は明らかに、なおも多くの人間らしさを、ヨーロッパの一部では、能力をも必要としております。社会の個人主義化は急速に、凡ゆる集団を端に迫りやり或いは無視するようにさせております。社会への参加とは、ドイツでもヨーロッパでも、認めることのできない相互分裂に至らぬための前提なのです。参加とは物質的労働だけでなく、社会を先へと進めるものに、巻きこまれぬための経験でもあるのです。ですから時代の発展について行けないような高齢の女と男の労働者がおりますが、今日私達は、ドイツの巨大経営体で、彼らがいなかったなら人生経験も失われ、数十年の経験によってのみ築かれたもの、確実な熟練、冷静さ、不要なものから重要なものを識別する適確な能力、故障から大事故を予知し得る経験も失なわれることを目に見ているのです。つまり社会から全ての老人を引き離せば、私達は大変無駄の多い生活を送ることになりましょう。

私達の社会では家族が強くならねばならない。これは私達が長年主張した、多くの家族にとり日曜日の説教よりもわかり易い言葉でしょう。これに加えて結婚と家族、それに伴って起る全ての結果に、明白な認識をもつ必要があると私は思います。私はかなり寛容な人間ですし、或る範囲内で、同性者生活共同体に法的保障が与えられるべきだと信じております。しかし基本法により保証された結婚と家族と、ホモセックス者の結婚とを同等に置くことは、私は正しいとはみなしません。私は大変当惑しながらこれを話し合いましたし、その他私は、こうした議論を私達は時に中断すべきこと、何故ならそれは大変な面倒を持ち込みかねないし、どうせ彼らは別種なのだから私達がホモ結婚を認めないという状況に急速になってしまうのではと申し上げたのです。でも彼らはどこに行くのでしょうか。

私達は決まりきった問題を簡単に打ち切り、それはもう決ったことだし、それ自身信用もされなかったと言いがちなのです。でもこれはますます悪くなるきざしです。私は幸いにも、ヘルムート・コール連邦共和国首相のもとのドイツキリスト教民主同盟において、婦人兼環境大臣を拝命しましたが、当同盟さえ、全ての問題に答え得ない領域があることを知りました。このためか多くの問題は、いつまでも棚上げされ、本気で取り組もうとはされませんでした。これではドイツの国民

の政党はますます萎縮し発展いたしません。ですからこれは全てを勝手に正しいとするのではなく、彼らの答をくりかえし確認する必要があるということなのですし、新しい時代の答にもますます裏付けがなければならないのです。

家族の教育力強化とは、子供達に温かい心をもつ社会を組織することでもあるのです。ここでも亦私達自身が新しい問題に立ち向わねばなりません。多くの家族は今日、持つべき教育力を持っておりません。これは非難され、頭をかかえて「両親はどうしているのだ」と言われます。でも私達は今や、何をすべきかを、問うべきでしょう。子供達が10、11、12才なら、影響をうけ易いでしょう。年上になれば、それは益々難しくなります。ましてや彼が20才になり、刑務所の出入りを繰り返す経歴をもつことになれば、これはもう社会問題なのです。私は思うのですが、これについて私達はもっと多く考え、とりわけ、毎日を保護監察司として、青少年保護員として社会保護司として活動している適任者に、こうした事例を指導して頂き、私達の社会では長らく受け容れも承認をも味わなかった人に、それらを味わせねばならないでしょう。

私達にはより多くの補完性が必要です。これはどこでも、できるだけ人間を人間らしく扱うことです。補完性とは領域の強化、多様性許容、人間の相互信頼を言います。更に政治的にそれは、解放殊に中央からの解放を言います。ですから過剰規制ではありません。これこそ私達が、ヨーロッパと一丸となり集中的に互いに議論せねばならぬ課題なのです。ですから他地域で規制されぬものを、ヨーロッパでは規制することも正しいのです。ヨーロッパ委員会の今日の活動は、明らかにヨーロッパ人に個有に与えられた活動空間に踏み込んでおります。ヨーロッパは、当然の事ながら、経済的空間として認められねばならず、外部に向けてその利害を主張せねばなりません。ですから、私達が再び関わった世界貿易機構の協議にも、共同で行動することが絶対重要だと、私はみております。そこでは私達は、国民国家としては最早や行動できませんし、ましてや私達の利益だけを主張するなど、論外でしょう。でもそれを必要不可欠なものにだけ絞りこむこと、そして人間をその場で信頼することは必要なのです。全てを過度に規制すれば、私達は自由に生きられない、これも亦私達が、過去の年月の中で経験した事の一つなのです。

ヨーロッパは世界平和のために尽力すべき大陸なのです。私達は今日、多くの紛争も私達が責任を引き受けることで、抑制し得ることを知っております。私が一たびバルカン半島の最新の歴史、更にそこでなお私達の目前に横たわる課題を考える時、いかに早く平和は色あせ、ここに介入することがいかに正しかったかを私達はみております。更にまた私達は世界の他領域にも介入し、なかんずく徹底して、新しい脅威に対峙せねばなりません。ここに私達は果すべき課題をもっておりますが、でも私はまだ最終的答を知らないのです。冷戦は全くぞっとするようなことでしたが、ある点では評価することができました。当時は壁がそびえており、そのもとで対立状態にあった、時

の支配者達は、生きのびようとしておりました。それは予測可能な事柄でした。こうしておどしの光景は、効果的な光景でもありました。

テロリズムとテロの脅威に関わっている今日、敵に対して、私達の開かれた社会を守らねばなりません、それは個有の生活を、絶対的に維持するためだけでなく、これらの生活を、彼らにとり正当でもある戦いに捧げるため、備えることなのです。この事実は全く新しい分析を必要とします。実態は存続しているものだけでも多様なのです。私達は生活と自由な社会を守ろうとし、それを開かれた状態に保とうとし、その一方で他の人は、私達の社会破壊のため、命を投げだそうとしております。この新しい挑戦にいかに対処するか、私達は来るべき十数年にわたり集中的に取り組むことになりましょう。私のみるところ、これには国際的に対処する以外にはなさそうです。これをヨーロッパ独りでは、できません。このため私達は、大西洋を越えた協力者を必要とし、このため私達は民主主義国家との共同体的価値基盤を必要とし、このため私達には新しい北大西洋条約機構 NATO が必要なのです。ヨーロッパは全てこれらの分野で果すべきことを、道徳的に知らねばならないだけでなく、参加することにも積極的でなければなりません。

ここには数年来私達が配慮せねばならなかった発展があります。私達はこれについて数多く議論しましたし、私はためらわず、ヨーロッパは独りでは何もできず、世界の民主主義国家、しかも何よりもまず私達のアメリカ人協力者と一丸となり、共同して自由の敵、自由への敵対者との戦を行うべきだと申し上げたいのです。ヨーロッパは、アメリカに逆って自由の価値に全く合わぬか、それに拘束もされぬ利益を第三者から得ようとしても、無意味でしょう。何故なら、そうした事全ては結局困難となり、そして私達個有の大切なものも、多分短期的利益のために、経済的課題やその他のもののために、結局守ることが大変難しくなるでしょう。ですからこの基本的事項をはっきりさせねばならないのです。

安定的秩序の設定とは、勿論私達がヨーロッパの境界を決めることです。ヨーロッパのこの境界については、価値の空間、歴史の空間、ヨーロッパ連合の統合力が大切なのです。ですから私達は、トルコの当連合正式会員待遇について極めて明確な立場をとっております。これは私達が、トルコはヨーロッパと地続きという地政学的問題を知らないからではありません。しかし私達は、正式会員の範囲内でこれ（トルコ加盟）は筋違いだと思いますし、いずれにせよ、私が見通し得る時期内のことでもないでしょう。私達はこのことを絶えず明言してきましたし、更に交渉は成果公表に重きをおいております。特権的協力者の目標に、私達はつながれてはなりません。ともあれ私達は、正しいとするものを語り、来るべき交渉におきましても、極めて明らかに示すことを、ためらってはならないのです。

ヨーロッパの基本的価値は、注意深く守らねばなりません。守られぬものは衰えてしまうのです。

そのためには議論を、ですから私はこのカトリック・アカデミーに大変感謝しておりますが、盛んにせねばなりません。つまり私達には、全て当然とみえるものでも、何故私達の行なったことは正しく、他は行なうまでもなかったのかを、来るべき世代人と問答することが、なおさら重要なのです。私達は今や危険にさらされ、馴れに息づまり、背後の精神的基盤は、結局どこに導くのかを、ベネディクト16世法皇が嘆きました或る種の空しさに向かい、方角を見失しなうものなのかを、私達に最早や確認させてくれないのです。ですから私達にはこの時期、多分ドイツやヨーロッパの殆んどの地域で、私達の安定は自働的成長による繁栄から味わい得ないのだということに、初めて直面した、まさにこの時期に、民主主義の基礎と私達の価値の基礎とを、もう一度しっかり確認することが極めて重要となります。

私はもう一度ラッツィンガー枢機卿時代の法皇ベネディクト16世の言葉を引用しましょう。「ヨーロッパとは、地理的に明確につかみ得る大陸ではなく、ヨーロッパとは、文化的かつ歴史的観念なのです」。私達はこれらを自覚せねばなりませんし、私達はこの観念をもって行動すべきなのです。私は住民の中には、この文化的かつ歴史的観念の認識を、いささかもたぬ人達も多いと信じております。私はこれを決して軽くはみておりません。私は一人の数学の教授を知っておりますが、私達はいつも彼に、一体私達は板張りの材料や、試験答案のいつもの決り文句と話しが合うのですかと訊ねたものです。なんと彼は「私でしたら、話しが合いますよ」と答えたものです。でも私は頭がカラな方はどうして考えられるのかしらと自問したものです。ですからまさしくヨーロッパの歴史、文化史的事柄や知識をいつでも自由に使える手持のもの、新しい状況に直面して新しい考えに結びつけ得る手持のものが、私達の頭になかったならば、このヨーロッパを立ちあげることも大変難かしくなることでしょう。

——完——

(2007年1月10日受理)